

ひろしまの遺跡

第122号

古墳の調査進む

—箱山第1・2号古墳（三次市）—



第1号古墳墳丘検出状況（北西から）



第1号古墳石室検出状況（南東から）

三次市向江田町にある箱山古墳群は9基の古墳で構成されています。そのうち、第1・2号古墳の調査を行っています。

第1号古墳は直径約11m、高さ約2mの円墳で、埋葬施設は南に開口する横穴式石室です。墳丘の横穴式石室は一部崩壊していますが、天井石が7枚残っています。古墳の北側には周溝が巡っており、周溝西側から須恵器甕の破片が一括して出土しています。

第2号古墳は一辺約10mの方墳で、墳丘表面には葺石を配していると考えられます。

発掘調査速報

① 箱山第1・2号古墳（三次市向江田町）

調査期間 令和元年10月15日
～令和2年1月下旬（予定）

箱山第1・2号古墳の調査は、林地荒廃防止事業に伴って実施しているもので、馬洗川（江の川水系）北側の天良山（標高311.8m）南裾に立地する計9基からなる古墳群のうちの2基です。第3～6号古墳については、中国横断自動車道尾道松江線建設に伴い、平成18年度に発掘調査が行われています。調査の結果、第3号古墳は横穴式石室を持つ古墳時代後期の古墳で、第4～6号古墳は箱式石棺・石蓋土坑・木棺を持つ古墳時代前期～中期の古墳であることがわかっています。また、第5号古墳は、葺石のある2段築成の方墳です。古墳には時期差がありますが、第1～6号古墳は南側に伸びる丘陵上に並んでおり、互いを意識して造られているようです。

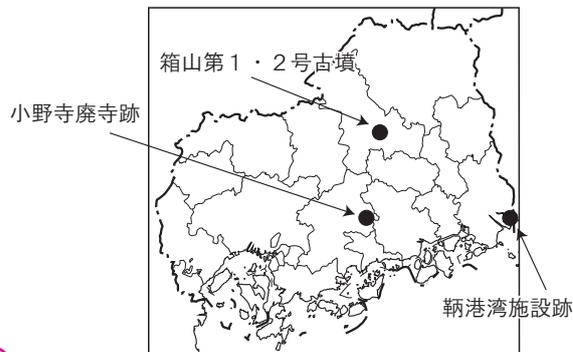
第1号古墳周溝から出土した須恵器は、大甕の破片で複数個体あるようです。（恵谷泰典）

② 小野寺廃寺跡（東広島市河内町入野）

調査期間 令和元年9月9日～10月28日

小野寺廃寺跡は中世の寺院跡で、入野集落北側の山裾に位置しています。遺跡の北西に位置する竹林寺は平安時代の歌人として有名な小野篁^{たかむら}にゆかりのある寺として知られ、かつては寺領も有するほど栄えていました。

調査では山裾を削って作り出した2段の平坦面とそれをつなぐ石段、土留めのための石積などが見つかりました。遺跡からは15世紀代の青磁や瓦質土器の香炉、灯明皿、近世の仏花瓶や香炉、明治期の徳利などがみつかりました。出土遺物はいずれも仏具と考えられるもので、小野寺廃寺跡が竹林寺の末寺として機能していた可能性が高いと考えられます。また、近世の遺物から寺廃絶後も利用されていたことが窺え、実際に1960年代までは小さな堂宇が建っていたことから、この場所が長期間に渡って民衆の信仰の場として利用されていたことがわかります。（恵谷泰典）





鞆港湾施設跡（福山市鞆町鞆）

東雁木第1次調査

調査期間 平成31年4月2日～令和2年1月（予定）

福山港鞆地区の高潮対策の一環で実施される雁木の修復工事に伴い実施しています。

東雁木は全長68mで、今年度は南側の53m分を調査しています。南端部の繋船柱に「明治十二季一月」と記されており、東雁木が明治12（1879）年頃に築造された可能性があります。

また、雁木の基礎の状況が場所によって違うこと、コンクリート製の雁木に置き換わっている部分があることなどから、雁木の積み直しや補修、かさ上げなどの改修工事が複数回にわたって行われていることがわかりました。

さらに、調査区南部の雁木の下層（奥）から石垣状の遺構が見つかりました。長方形の石を谷積みで2段（高さ約80cm）積んだもので、約16mの長さを確認しました。現在の雁木の築造以前に築かれたもので、埋め戻して保存されています。

北・東雁木第2次調査

調査期間 令和元年6月26日～10月24日

北・東雁木の陸側に高潮対策のため設置される、起伏式ゲートの工事範囲について、実施しました。

調査の結果、昨年度の発掘調査で確認していた石垣の延長部分や、繋船柱の基礎部分が見つかりました。石垣の位置は、大正14（1925）年の地籍図に描かれた海岸線に該当します。

道越胸壁設置工事に伴う確認調査

調査期間 令和元年5月27日～6月14日

東雁木の南側で高潮対策のため設置される、防潮堤の整備工事範囲について、実施しました。

調査範囲は長さ約50m、幅約2mで、約1.2mの深さまで掘り下げました。遺構は確認されず、海砂が堆積していました。遺物は貝殻のほか、ガラス・レンガ・現代陶磁器などが少量混入しており、現代の埋め立てとみられます。（唐口勉三）



東雁木第1次調査地 調査前（南から）



コンクリート下に残る雁木（西から）



石垣状の遺構（南から）



東雁木第2次調査地 石垣（西から）



道越胸壁工事範囲 発掘状況（南東から）



知られざるひろしまの遺跡探訪

広島発！ローカル(乗合)列車・バスで行く遺跡探訪ツアー



宮尾城跡



資料館見学



鷹ノ巣高砲台跡（観測所跡）



金龍寺にて

第1回（令和元年5月18日）

令和初の遺跡探訪は廿日市市宮島町へ。まずは巖島合戦に備えて毛利元就が整備したとされる宮尾城跡へ上がりました。宮尾城跡からは宮島の町並みが一望できます。宮尾城跡からは陸軍道路を通って包ヶ浦に向かいました。包ヶ浦は毛利元就が陶軍と対峙するために巖島に向かい、上陸した場所であり、明治時代から昭和20年にかけて大日本帝国陸軍の施設が置かれた場所でもあります。また、包ヶ浦の背後にある鷹ノ巣山には明治時代に砲台が築かれており、大正15年に廃止されるまで広島湾と呉軍港を防備する役割を持っていました。山中には石やレンガで造られた砲台跡や観測所・司令所跡などが残っており、それらを見学しました。砲台跡はすでに崩壊している所も多く、見学には注意が必要ですが、それでも当時の建築技術の高さや、山の上まで資材を運ぶ苦労などを身近に感じることができました。観光地宮島の違う一面を見たツアーとなりました。

第2回（令和元年6月17日）

第2回は府中市が舞台。府中市には備後国府が置かれ、古代の備後地方の中心地でした。長年の調査成果の蓄積が評価され、備後国府跡として国史跡になった範囲を見学しました。まずは府中市歴史民俗資料館で国府のお勉強！資料館学芸員さんの解説を聞きながら、国府に関連する施設から出土した資料を見学しました。復元された古代の衣装も見せてもらい、その美しさに皆ためいきを漏らしていました。

午後からは国府跡を散策です。当時の役人の装束に身を包んだ府中市教育委員会の方の案内のもと、古代山陽道から備後国府への分岐点がみつかった「はじまりの広場」から見学しました。備後国府の説明だけではなく、発掘調査時のエピソードや史跡整備の苦労話、案内板にこめられたこだわりなど、担当者ならではの情報が盛り込まれた内容に参加者全員が聞き入っていました。

南観音考古学教室Ⅶ

見る・聞く・やってみるの考古学

7月20日（第1回 勾玉づくり）・8月3日（第2回 埴輪づくり）・8月22日（第3回 火起こし・米炊き）・9月21日（第4回 史跡めぐり）の4回に渡って、南観音公民館と共催で考古学教室を開催しました。勾玉づくりと埴輪づくりでは、子供たちのアイデアが光る個性的な作品がたくさん！火起こし・米炊きも暑さに負けず頑張りました。史跡めぐりは五日市～楽々園周辺の史跡を散策。参加者からは普段は車で通り過ぎてしまう場所にも多くの史跡があるんだな、という声が聞かれました。

第1回 きらきら教室



色とりどりのネックレス完成！

第2回 こねこね教室



個性的な埴輪がたくさんできました♪

第3回 うまうま教室



土器でお米を炊きます



おかわり！



ごちそうさまでした！



第4回 てくてく教室



楽々園の塩田跡



海老山の古墓



街道松を見上げて

考古学



アラカルト 54



写真1 野原山城跡 全景（南東から）

おり、柄の一部と考えられます。茎に目釘穴があり、目釘が折れて内部に残っているようです。短刀2は、長さ約24.5cm（刀身約16.0cm、茎約8.5cm）、幅約1.2cm、重さ62.14g、ほぼ完形で形状は平造り、おそらく庵棟、小切先で無反りです。こちらも表面は錆びて刃文、鍛え肌、茎の鑢目などは不明です。茎に木片が残っており、柄の一部と考えられます。二振とも作刀・使用時期ははっきりしません。

この二振の短刀は、何に使われたのでしょうか。短刀は戦いの道具ですから山城にあるのは不思議ではありませんが、出土状況を見ると、短刀1はSK5の北隅底部から砥石や土師質土器の皿の破片と一緒に出土しています（写真3）。砥石は刃物などを研ぐ時に使います。また、古くから日本では人が亡くなったとき、遺体を北向きに寝かせて、その胸元に「守り刀」の短刀を置く習慣があります。SK5は墓穴で、短刀は葬られた人と一緒に埋葬した守り刀だった



写真3 SK5短刀出土状況

出土した短刀は何を語るのか？ —野原山城跡（広島市安芸区）出土の二振の短刀—

日本刀の中で、刀身が一尺（約30.3cm）以下のものを短刀といいます。鑿をつけない点が後世の脇差と異なり、用途から刺刀、差し方から懐刀・腰刀、拵から鞘巻・合口（ヒ首）などと呼ばれます。

平成30（2018）年度に調査した野原山城跡（写真1）の、曲輪（郭）と推定される平坦面から短刀二振が出土しました。平坦面西端の土坑SK5から短刀1が出土し、その周辺から短刀2が出土しました（写真2）。短刀1は、長さ約22cm（刀身約15.5cm、茎約6.5cm）、幅約1.2cm、重さ48.91gで、3つに折れていましたが、接合するとほぼ完形となります。形状は平造り、おそらく庵棟、小切先で無反りです。錆びて刃文、鍛え肌、茎の鑢目は不明ですが、刃区に鑢の一部が、茎尻に柄頭の一部が残っていました。折れた断面を観察すると、何回も折り返して鍛錬した様子が観察できます。茎の表面には木片が残って



写真2 野原山城跡出土の短刀

のではないのでしょうか。

この二振の短刀は、当時の人々の生活や考えを今に伝える大変貴重な研究

資料です。今後も最新の研究を踏まえ、詳細に考察を加えていく必要があると考えています。

（島田朋之）

インターンシップ研修

8月19日～23日に、当室でインターンシップ研修を実施し、安田女子大学生2名・比治山大学生2名が参加しました。研修では遺跡から出土した遺物の洗浄やネーミングなどの整理作業と、博物館に貸出す資料の準備、考古学教室（火起こし・米炊き）の補助を行いました。考古学教室では、開催に向けて米炊きと火起こしの練習はもちろん、燃料となる木材の運搬や薪割りなど普段はやることのない作業も多くありましたが、4人で力を合わせて頑張っていました。本番ではしっかりと役割をこなし、子供たちの笑顔に本人たちも喜びを感じたようです。



遺物の整理作業



火起こし体験の指導中

博物館実習

8月26日（月）から30日（金）まで、比治山大学言語文化学科4年生の城本直也君が当室で博物館実習を行いました。実習では、出土品の取扱い方や梱包、保存処理や実測など短期間でしたがさまざまな作業にチャレンジしてもらいました。実習終了後の感想では、一番印象に残ったのが、実測。初めての体験で非常に貴重な体験だったと記したのは保存処理でした。遺跡から発掘された出土品が、どのような過程を経て博物館に展示されるようになるのか、当室での裏方の体験は新鮮だったようです。すでに一般企業に就職が内定しているそうですが、博物館の裏方の人たちが日頃どんな仕事をしているのか少しでも体験出来て、大変有意義だったと感想に書いてくれました。



保存処理の実習のようす



実習後の感想などをアンケート

行事のお知らせ

令和元度ひろしま考古学講座VIII

考古学おいでまいど

聴講無料
申込不要

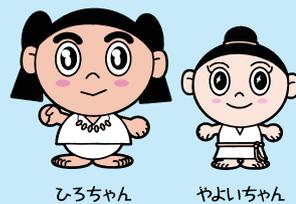
回	期 日	テーマと概要	講 師
1	令和元年 12月21日（土）	世界遺産・百舌鳥古市古墳群とひろしまの古墳 今年世界遺産に登録された大阪の百舌鳥・古市古墳群とひろしまの古墳の関りを考えます。天皇陵に治定される古墳と地方の古墳の関りは一体どんなところにあるのでしょうか？	伊藤 実 (当事業団 埋蔵文化財調査室)
2	令和2年 1月18日（土）	郡山合戦を再検討するー城跡の分布調査から見えるものー 天文9年（1540）の尼子と毛利の戦い「郡山合戦」は、郡山籠城戦として知られています。この戦い実相に、最近見つかった尼子の陣城遺構から迫ります。	秋本 哲治 (安芸高田市教育委員会 生涯学習課)
3	2月15日（土）	三次の古墳の謎 広島県は全国的に古墳の多い県の一つです。なかでも三次市には約4,000基の古墳があり、全国一古墳の多い自治体です。これらの古墳の特徴について紹介します。	桑原 隆博 (三次市教育委員会 文化と学びの課)
4	2月22日（土）	駅路山陽道と駅の話ーどんなことが分かっているのか？ー 奈良・平安時代の七道駅路のうち山陽道には、芸備地域に18駅がありました。芸備地域の駅路と駅について、現在までに分かっていることをお話しします。	谷重 豊季 (府中市歴史民俗資料館)
5	3月14日（土）	伝 吉川興経（おきつね）首塚を掘る！ 毛利元就の次男・元春の吉川家養子縁組に絡んで、毛利氏によって謀殺された吉川興経の首塚（北広島町中山・常仙寺跡に所在）の発掘から明らかになった墓の変遷と興経謀殺の背景を探ります。	佐々木直彦 (北広島町教育委員会 生涯学習課)
6	3月21日（土）	遺跡出土品にみるリサイクルー広島県内中世遺跡を中心にー 日本で使い捨てが盛んに行われるようになったのは、それほど古いことではありません。吉川元春館跡（北広島町）を中心に、県内の中世遺跡から明らかになったリサイクルについて紹介します。	岩本 芳幸 (当事業団 埋蔵文化財調査室)

会 場 広島県立総合体育館 地下1階 中会議室

(広島市中区基町4番1号 電話：082-228-1111)

時 間 14時～16時 (開場は13時30分～)

定 員 100名 ※申込は不要です。当日会場にお越しください。



あとがき

令和元年があつという間に過ぎました。元号がかわっても、私たちの仕事に変わりはありません。遺跡を発掘して過去のをみつけ、保管・活用し、未来へ繋げていくために、今日も調査員たちは仕事に励みます。

今年度も考古学講座を開催します。興味のある回があれば、ぜひご参加ください。

(公財)広島県教育事業団事務局埋蔵文化財調査室報
ひろしまの遺跡 第122号

発行日 令和2年1月24日
 編集 (公財)広島県教育事業団事務局埋蔵文化財調査室
 〒733-0036 広島市西区観音新町4-8-9
 TEL(082)295-5751 FAX(082)291-3951
 ホームページ <http://www.harc.or.jp/>
 E-mail maibun@harc.or.jp
 発行 (公財)広島県教育事業団
 印刷 鯉城印刷株式会社

